

いずれの事業も、会員だけで運営できるものでなく、行政や各種団体のご理解とご支援とともに、学校の先生やPTAの皆様方、保護者の皆様の温かいご支援の賜で、心から感謝を申し上げます。

### 前橋ユネスコ協会

#### ―初代県令 楳取素彦と

文の足跡を訪ねて―  
今年度の群馬県ユネスコ連絡協議会研修視察は前橋ユネスコ協会がホストとして担当いたしました。

七月十八日(土)に「初代県令 楳取素彦と文の足跡を訪ねて」をテーマに、県庁昭和庁舎での講演会。午後からは、昭和庁舎を会場に現在開催中の「ぐんま花燃ゆ大河ドラマ館」、前橋公園(楳取素彦顕彰碑)、臨江閣(本館、別館)を巡りました。

当日は四十八名の皆さんに参加いただき、午前十時から開会式。県ユ協関係者から挨拶をいただき日程説明の後、講演会を開催しました。講師には前橋市文化スポーツ部参事の手島仁さん(上毛新聞などに連載を掲載。NHKに出演したりして名前を知っている人は多かった。)をお招きしました。

講演内容は、とても興味をもって聞くことができました。最初に明治十一年、明治天皇が群馬県に巡幸時、県令楳取素彦が献上した写真について説明があり、群馬県庁、前橋生糸改所、群馬県師範学

校、群馬県衛生所、各地にあった製糸場などの写真を見ながら話を聞くことができました。

また、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の総括ディレクターとの話や群馬県令としての教育、産業、文化についての功績など九十分があつと言う間に過ぎてしまいました。

昼食後、県庁昭和庁舎内で開催中の大河ドラマ館「花燃ゆ」のセットを見学しました。テレビに出てくるセットや衣裳など楽しく見て回ることができました。

昭和庁舎から臨江閣まで歩いて回りましたが、四名のボランティアガイドと一緒に回っていただき、公園内にある楳取の顕彰碑について説明をいただきました。

臨江閣ではボランティアガイドに館内を案内していただき、本館は楳取の提案で迎賓館として下村善太郎(初代前橋市長)を始めとする地元有志や企業の寄付で建設された建造物との説明を聞きまし



た。  
雨にもかかわらず参加していただいた各ユ協の皆さん、ありがとうございます。

### 伊勢崎ユネスコ協会

設案 孝吉

平成二十七年の主な事業

一、総会及び春の研修会(五月十五日)  
時間の都合により総会は行ききのバスの中で行い、事業及び決算・予算等を承認し閉会、その間に研修地である上田市に到着。「上田の歴史を訪ねて」の第一歩、上田城跡公園から始まりました。現地のボランティアさん二名に案内され二の丸橋を渡り(現在は旧二の丸内が上田城跡公園になっている)、途中案内板の前で説明を受け、東虎口櫓門を通り真田神社に出る。ここでも説明を聞き参拝。西に向かい上田市が一望できる西櫓にて休憩。次の研修地である池波正太郎「真田太平記館」、国分寺跡、現信濃国分寺を参拝。本堂にて説明を受け、暑さをしのがせていただきました。

二、ユネスコ子ども作品展(八月七日)

九日)

伊勢崎市子ども会育成会連絡協議会との共催。伊勢崎市福祉プラザにて市内十一地区の子ども達の「図画、習字、工作」総数五〇〇点余の作品を展示。また友好都市である中国馬鞍山市・米国スプリングフィールド市の作品も同時展示します。作品の中からユネスコ協会賞に選

ばれた作品は友好都市の二市に送り展示していただいています。

三、秋の史跡めぐり(十月予定)

四、書き損じハガキ回収キャンペーン(十二月中旬)

市内公民館等に回収ポスト設置。

五、新春会員の集い(二月二十日)

市長、教育長、関係団体、賛助会員、会員による。

六、一年間の反省、次年度計画。書き損じハガキ回収。切手の送付。ユネスコ新聞発行。

七、コ新聞発行。

なお、今年度は会員増強、賛助会員開拓を進める為、会員の努力を結集し充実した会運営を目指したいと考えています。



### 高崎ユネスコ協会

上野三碑世界記憶遺産登録に期待

会長 樋口 克己

国の特別史跡である上野三碑をユネス